

ごあいさつ

滋賀県家畜保健衛生所
所長 富田 文博

畜産農家をはじめとする関係者のみなさまには、日頃より家畜衛生の推進に御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、イスラエル・パレスチナ戦争など世界情勢の先行きの不透明感は増すばかりで、円安も相まって輸入品の高騰など、日本経済への影響が心配されるどころです。

一方で、令和5年の訪日客数は2,506万人とコロナ禍前の令和元年の8割に回復し、訪日客の旅行消費額は計5兆2,923億円で過去最高でした。本年3月および4月の訪日客数も2か月連続で300万人を超え、過去最高を更新しており、訪日客による消費等の活動が今後の畜産業に好影響をもたらすことを期待するところですが、人や物の動きが盛んになればなるほど海外悪性伝染病である口蹄疫やアフリカ豚熱などの国内侵入リスクが高まります。アジアでは、口蹄疫が継続して確認されていますし、日本との往来者が多い韓国釜山市においては、6月23日時点で野生イノシシ25例にアフリカ豚熱感染が確認されていることから、厳重な警戒と確実な発生防止対策を実施していくことが重要です。

また、高病原性鳥インフルエンザについては、直近の2023年シーズンは国内で10県11事例の発生がありました。2022年シーズンの26道県84事例に比較すると大幅に減少しましたが、野鳥では28都道府県

156事例の発生があり、全国どこにでもウイルスが存在する状況にあることが示唆されていまして、今後においても決して気を緩めることができないと考えます。

当所では、飼養衛生管理基準の遵守指導などの発生予防対策や平時からの特定家畜伝染病に対する危機管理は、畜産農家の利益や財産を守り、経営継続していただくための重要な業務として位置づけています。令和6年度においても、滋賀県飼養衛生管理指導等計画に基づき、年に1回以上農家を訪問して飼養衛生管理基準の遵守状況を確認させていただき、家畜伝染病の発生予防や家畜衛生対策による生産性向上などを図っていきます。令和3年度から本誌ごあいさつにおいて毎年同じことを申し上げていますが、畜産農家のみなさまには、今一度、飼養衛生管理状況を確認いただき、「自らの経営を守る」「仲間を守る」「地域を守る」を合言葉に確実な取組をお願いいたします。

最後になりますが、今回の通信衛星の発行で平成3年9月の創刊から第100号となりました。この33年の間、農家の紹介記事など関係者のみなさまのご協力も多くいただき、感謝いたします。引き続き、適切な情報伝達手段を選択し、みなさまのお役に立つ情報の提供に努めてまいります。